



平成30年度 第4回 遺跡見学会 平成30年11月17日(土)

久喜市 おばやしはっそく 古墳時代のムラと縄文の谷 小林八束1遺跡 (第7次)

小林八束1遺跡は、久喜市の南西部、菖蒲総合支所の南側に位置し、大宮台地と加須低地が接する地域に立地しています。小林調節池の改修工事に伴う発掘調査の結果、縄文時代後期(約4,000年前)の谷と古墳時代前期(約1,700年前)のムラが見つかりました。



小林八束1遺跡周辺の遺跡



- 1. 小林八束2遺跡
- 2. 神ノ木2遺跡
- 3. 九宮2遺跡
- 4. 地獄田遺跡
- 5. デーノタメ遺跡
- 6. 後谷遺跡
- 7. 栗師堂根遺跡
- 8. 戸崎前遺跡
- 9. 本上遺跡
- 10. 小室天神前遺跡
- 11. 大山遺跡
- 12. 赤羽遺跡
- 13. 八番耕地遺跡



西斜面の遺物出土状況

谷の西側からたくさんの遺物が出土しました。東側よりも量が多く、新しい時期（縄文時代後期後半）の土器が含まれています。（裏面「遺跡の断面図」参照）



縄文時代後期の木組遺構



木組部



板敷部

杭と横板を組み合わせた「木組部」と板材が敷かれた「板敷部」が並んで見つかりました。



谷に堆積した土

厚さ約2mの土層が堆積していました。上部では古墳時代前期の木製品（農具等）が、また下部では縄文時代後期の土器や堅果類、木材が大量に出土しています。



堅果類や木材の検出

谷では水漬けとなった、トチ・クルミ等のさまざまな木の実が、腐らずに残っていました。

縄文時代後期（約4,000年前）

「谷」は木組施設を造り、水場として利用しています。「谷」と「東斜面」や「西斜面」では多量の縄文土器片が見つっています。

古墳時代前期（約1,700年前）

標高の高い東側の「台地」には、竪穴住居や墓（方形周溝墓）が分布しています。「谷」には木組施設が造られ、多量の木製品が出土しました。



古代以降（約1,300年前～）

今回新たに、台地の縁辺で炭焼窯が見つかりました。



遺跡の地形（西から）

調査区付近は、地形の変換点だったため、埋没したローム台地の縁辺、斜面地、谷などの複雑な地形が現れました。



古墳時代前期の竪穴住居跡



台地に分布しています。住居を廃絶した後に、使われなくなった土器が捨てられています。



古代以降の炭焼窯



窯の中の堆積土

「炭化室（炭を焼く部屋）」、「前庭部（炭化室前面の作業場）」、「煙道部（外部へ煙を出す）」からなる構造です。窯の中の炭化層の観察から、5回以上炭が焼かれたことがわかりました。